

# ESD レポート

Education for Sustainable Development

vol. 11

2007 春

2007年3月15日発行

NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

ESDとは「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development」の略。社会、環境、経済、文化の視点から、人類が直面するさまざまな課題に取り組み、公正で豊かな未来をつくる「持続可能な開発」—— それを実現する力を、世界各地に生きる私たち一人ひとりが学び育むことをめざして、「国連持続可能な開発のための教育の10年(ESDの10年)」が、2005年からスタートしています。



国際理解教育

日本ユネスコ協会連盟が実施する出前授業～インドの暮らしについて



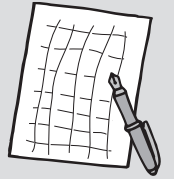
キャリア教育

コミュニケーションゲームをとおしてかかわりあう社会人と中学生たち



人権教育

地域ぐるみの教育をめざし、地域住民と保育所、幼稚園、小学校関係者が開催する、「ゆめふれあいフェスタ」



## 特集 ESD シナリオづくりプロジェクト その3

# 分野を超えた共育の芽

ESD への「小さなシナリオ」をつくる

### 目次

#### ■特集

ESDシナリオづくりプロジェクト その3 分野を超えた共育の芽 ESDへの「小さなシナリオ」をつくる ……p2

#### ■シリーズ 学びの場をデザインする 3

暮らしを学びに 山村留学が子どもと村人を自立させる ……p4

■ ESD なんでも相談室 3 …… p4

Q 地域の人たちに「ESD」をうまく伝えられません……。

■ ESD 基本用語集 10 …… p5

ディープエコロジー 人間開発指数 (HDI)

■ ESD INFORMATION …… p6

各省庁の ESD 関連施策 ご紹介

■ ESD-1 だより …… p6

2007年1月から2月の活動報告

■ トピックス …… p6

環境省 ESD 促進事業・経験交流ミーティング  
日本ユネスコ国内委員会オープンフォーラム

■ ESD へのメッセージ! …… p8

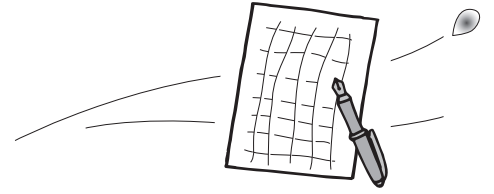
国際連合大学 安井至  
ESD 地域ネットワークにいがた 市嶋彰  
ESDin 三重 脇田智恵



「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

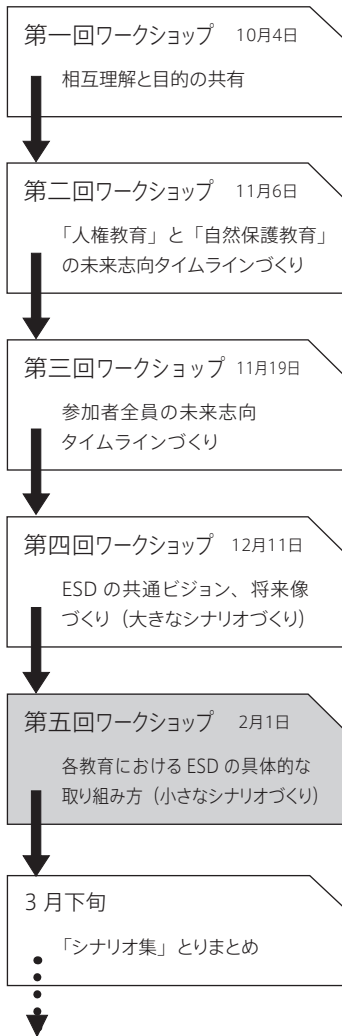
# 分野を超えた共育の芽

## ESDへの「小さなシナリオ」をつくる

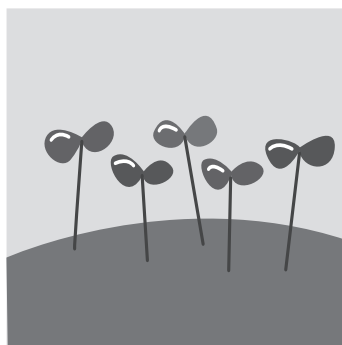


「各教育への ESD の活かし方」を検討するための ESD シナリオづくりプロジェクト。これまでさまざまな教育分野の人たちと、価値観や原体験、教育活動の手法などを共有することに時間をかけてきました。いよいよ最後のワークショップでは、集まったメンバーで、ESD の実践的なプログラムデザインを試作しました。

### シナリオづくりプロジェクトのすすめ方



「シナリオ集」の活用へ



### 即席のタスクチームづくり

ESD のプログラム試作 (小さなシナリオづくり) をするにあたり、4つのステップでチームをつくりました。これまでのワークショップで得た共通の感覚を確かめるように、または不足を補うように、有機的なチームづくりのワークを通じて、個性あるチームが3つ誕生。その後のワークにも期待が高まりました。



### プログラムをデザインする

プログラムの「対象者」や「ねらい」「内容」などを記入するためのフォーマットを配布し、プログラムづくりがスタート。各チームともお互いの教育に関する考えや経験などの意見を交わしながら、なにが可能なのかを探っていました。しかし、分野を超えて、お互いのめざす姿を重ねながら、イメージを具体化することは、それほど簡単な作業ではなく、どのチームも作業を楽しみつつも、最後のプログラムに落とす場面では苦勞をしているようでした。

チーム A では、「食」というキーワードから、食の安全性の問題や、生産性だけを求めて失いつつある日本の農業、季節や地域性を失った食文化などを切り口とした ESD が議論されていました。

チーム B は、日本ユネスコ協会連盟の幅広い活動領域について耳を傾けながら、環境教育と多文化理解に関する教育プログラムの可能性を探っていました。

チーム C は、環境教育におけるジェンダーの問題を認識し合ったり、まだまだ啓発・講義が多いジェンダー教育についても話題が及

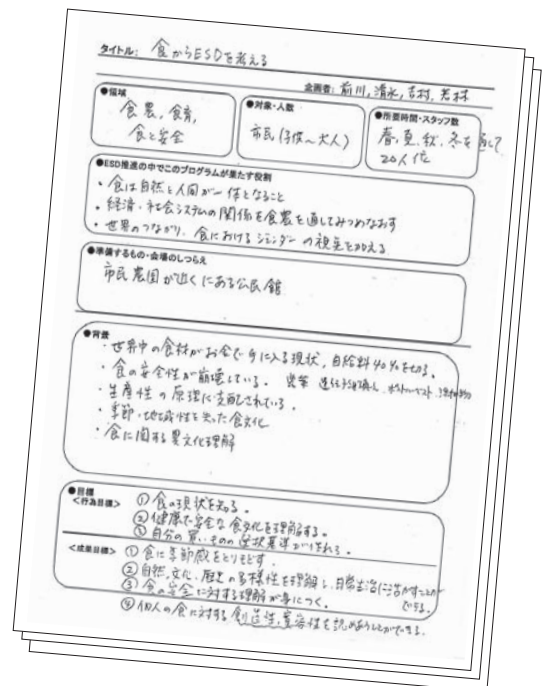
### チームづくりの4ステップ

- ① これまでの印象で、興味をもった相手を選び話す
- ↓
- ② 教育手法、対象者などテクニカルな興味として相手を選び話す
- ↓
- ③ 将来目標や価値観を共有できそうな相手を選び話す
- ↓
- ④ これまでの組み合わせを勘案し、最後に誰とチームになるかを決定 (ファイナルアンサー)

3つのチームができた。

んでいました。

そして、休憩をはさんで約1時間30分。非常に限られた時間でしたが、即席の ESD プログラムの「芽」となるものが3つできあがりました。



#### ▼小さなシナリオ 1

### 「食から ESD を考える」(チーム A)

**対象・人数** 市民(子ども~大人)

#### **目標**

食に季節感を取り戻す  
食の安全性に対する理解が身につく ほか

#### **主な内容**

1年を通じて、エコロジカルな食の歳時記をつくる

人権教育:前川実、食農教育:清水悟、環境教育:若林千賀子、青少年教育:  
吉村敏、ファシリテーター:嵯峨創平



#### ▼小さなシナリオ 2

### 「あそび探検隊」(チーム B)

**対象・人数** 小学校 高学年

#### **目標**

持続可能性を視野に入れた「ものづくり」に関心をもつようになる ほか

#### **主な内容**

今の遊びについて考え、昔の遊び、自然の遊び、海外の遊びを体験しながら昔の生活・文化や海外の子どもたちの暮らしなども学ぶ。最後に、環境に負荷をかけないオリジナルの遊びを創造する

環境教育:安西英明・志村智子・内村美紀、国際理解教育:長倉義信、  
ESD-J:村上千里



#### ▼小さなシナリオ 3

### 「ジェンダーイエローカード」(チーム C)

**対象・人数** 指導者

#### **目標**

普段意識していない価値観を知る  
多様な考え方を知る ほか

#### **主な内容**

環境教育や青少年育成など、参加した指導者が実践する教育の「ある場面」を再現。これまでの指導のなかで、ジェンダーの視点からみて問題と思われる発言や行為を第3者がチェックしてイエローカードやレッドカードをだし、指導者間でジェンダーについて学び合う

環境教育:渡辺峰生、青少年育成:片岡麻里、ジェンダー教育:太田まさこ、  
ファシリテーター:福田寛之



## 3つの ESD の 芽



### シナリオづくりプロジェクトの 成果、3つ

5回のワークショップが終わりました。このワークショップを通じた成果としては、大きく3つがあげられます。

まず一つめは**大きなシナリオ**。実際の大きなシナリオは、第2回から第4回に作成したタイムラインのことですが、大切なことは、その作業を通じて参加者が得たESDへの期待感や、他分野の人たちとつながることの可能性でしょう。参加者の思いが近い将来、分野横断的にESDを実施するベースとなることをESD-J(主催者)は期待しています。これら大きなシナリオの成果は、2006年度の『ESD-J活動報告書』に、参加者の声としてまとめる予定です。

次の成果は、前述の3つの**小さなシナリオ**。ぜひ来年度には具体的な取組みとしてモデル的に実施したり、さらに多くの小さなシナリオを多様な人々とともに作りたくと考えています。

そして3つめは、今回実施した5回のワークショップを**パッケージ化**(半日×3

日間)して、地域で多様な主体が集まってESDを考え、推進していくためのツールとして活用してもらおうというものです。このパッケージも活動報告書に掲載する予定です。読者のみなさまもぜひご活用ください。

### まずは ESD-J での他者理解・ 異文化理解を

当初、このプロジェクトは地域でESDをすすめる教育関係者のヒントとなるシナリオをつくりたい、という思いでスタートしました。事務局としても手探りですすすめてきた感が強く、どんな成果が生まれるのか、時間を割いてもらっただけのものを参加者へ返せるのか、期待と不安に包まれた半年間でしたが、終わってみると、ESDの可能性をいろいろと感じるとともに、むずかしさも実感した半年間でした。

参加いただいた方のコメントをいくつかご紹介させていただきます。

★「(このワークショップでよかった点は)さまざまな分野の活動がSD(持続可能な開発)にむけて相互補完している

ことを再確認できた」(自然体験活動推進協議会 内村美紀さん)

★「他分野での考え、共通点などが刺激になり、一緒に考えていくプロセスこそESDかなと思いました。自らの団体にここで得たことをフィードバックしていきたい」(ボーイスカウト日本連盟 吉村敏さん)

★「ESDメンバーでさえも他者理解・異文化理解がすすんでいないのが現状。このようなワークショップはもっと必要」(日本環境教育フォーラム 若林千賀子さん)

最後に、お忙しいなか、本プロジェクトに参加いただいた各教育分野のみなさま、そして事務局の無理難題を常に前向きにとらえ、内容の濃いワークショップを実現していただいたファシリテーターの嵯峨創平さんと福田寛之さんにお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。そして、ESD-J会員のみなさま。これまで出合わなかった分野の人々が、ESDの10年をきっかけに、相互理解を深めながら共に育っていく。そんな共育の場を一緒につくってきましょう。よろしくお祈りします。(ESD-J 佐々木雅一)

★小さなシナリオの詳細はWEBサイトにて公開していますので、ご覧ください。[www.esd-j.org/scenario/](http://www.esd-j.org/scenario/)

# 暮らしを学ぶに ～山村留学が子どもと村人を自立させる

NPO 法人 グリーンウッド自然体験教育センター 野田恵

約 20 年前。学校の管理教育・進学競争の激化、校内暴力やいじめ、子どもの自殺といった学校病理が社会問題化するなか、小さな山村で子どもたちの「学びの場」を模索する試みが始まりました。

## 暮らしのなかに学びがある

都内の幼稚園教諭であった梶さち子は、フリープログラムの「自由キャンプ」を提唱する仲間たちと活動を始めていました。長期間自然のなかで寝食をともにするうちに、子どもたちに強い気持ちと行動力が

芽生えていきます。「自分たちのものは自分たちでつくって暮らしてみたいね」。キャンプで体験した素朴な「暮らし」のなかに、「学び」があると感じた梶たちは、本格的に「地域に根ざした暮らしから学ぶ場」をつくることをめざします。

長野県南部の山間僻地、<sup>やすおか</sup>泰阜村。こ

でまず子どもたちは設計図を描き、家を建てました。図書館や五右衛門風呂、米づくりや野菜づくり、ニワトリの飼育、さらには登り窯をつくって食器づくりにも挑戦していきました。これがグリーンウッドの主催する山村留学、「暮らしの学校 だいだらぼっち」の始まりです。

## センターだけで完結する「施設」にしない

20 年後の現在も、教育理念は変わりません。村の学校に通いながら、暮らしに必要なものを自分たちでつくりあげる。子どもたちは木造の小屋で一年間の共同生活を営みながら、地域の方と交流し、「おじいさま」「おばあさま」の知恵から積極的に学びます。

例えば、ストーブや風呂の燃料として薪が不可欠ですが、子どもたちには自分たちの山がありません。地域の方に交渉し間伐材を手に入れています。このような活動ができているのも、グリーンウッドが設立当初から、センターだけで完結する「施設」にしないという思いのもと、子どもたちの通う学校はもちろん、地域との積極的な協力関係をつくるよう努力してきた歴史があるからです。

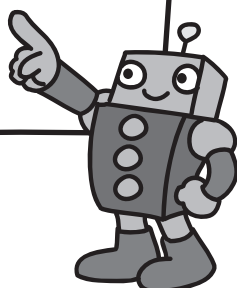


地元の方がしとめたイノシシをだいだらぼっちに持ってきた!! 子どもたちの前で解体。みんなおっかなびっくり、興味津々。もちろんこの日の夕食は、いのしし汁

## ESD なんでも相談室③

### 《質問》

地域の人たちに「ESD」をうまく伝えられません……。



### お答えします

ESD は包括的で、その方法や形も地域によって多様です。ゆえに具体的な姿がみえずに、「むずかしい」「わかりにくい」印象を与えます。

しかし ESD という言葉や概念からスタートする必要はないかもしれません。まずは、地域の問題をみつめ直し、その問題解決をさまざまな人たちで考え、できることをはじめる。動きながらいろいろな人が参加し、その学び合いの場を大切にしていく。そういう活動をとおして理解されていけばよいのだと思います。

ESD とは、地域の将来を私たち自身の手で一緒につくること。みなさんの地域における ESD はなにか? アイデアを出し合うことそのものが、ESD の第一歩といえるでしょう。

※みなさんも ESD に関する疑問や質問を事務局までお寄せください。

## ESD を知ろう



UNESCO ESD マスコット「DDくん」

暮らしに必要な薪は、地元の山から伐りだして、子どもたちが薪割りする



## わしゃ、生まれ変わったら教師になりたい

1999年、地域住民とグリーンウッドのスタッフが実行委員会を結成して、文部省（当時）と農水省連携事業の「こども長期自然体験村」を実施しました。村民が初めて取り組んだ、子どもの体験活動です。「わしゃあ、子どものことはなにもわからん」とくり返し口にしていた、木下藤恒さん（アマゴ養殖業）が、2週間の受入れを終えて都会の子どもたちを見送ったあと、当センターの事務局長である辻英之にこうつぶやきました。「辻君、わしゃ、生まれ変わったら教師になりたい」。

それまで村の豊かな自然を否定的にとらえていた住民たちでしたが、これを契機に、村民による「やすおか子ども体験村実行委員会」や泰阜グリーンツーリズム研究会が立ち上がり、自然体験イベントなどが継続して実施されるようになったのです。

## 村の自立を支える仕掛けづくり

泰阜村は人口2000人に満たない小さな村。山村留学など都市山村交流活動の支援をすすめる松島貞治村長は、次のように語ります。「山村留学の卒業生やその保護者は泰阜村の応援団でもある。村の財政は厳しいが、人にお金をかける意味は大きい」。

都会の子どもをお客さんとして呼び寄せ、一時的に児童数を増加させることに終始するような山村留学が多いなか、泰阜村は、僻地での不便な生活の教育的意義をしっかりと考えた政策をとってきました。山村留学の卒業生は、村の成人式に招待されますし、個人的にもしばしば泰阜村を訪れています。ここがまさに、かけがえない第二のふるさとになっています。

また、当センターも村の厳しい財政事情をふまえ、村の自立に貢献すべく、さまざまな工夫を行っています。活動によって年間1300人以上の交流人口（実数）が生まれていますが、参加者の食材は近隣農家と作付け契約を結んでいます。都会から自然体験活動に参加する子どもたちが地元農家と交流し、地域の方に山村の文化や魅力などを語ってもらう機会を設けています。体験活動の地元講師は有給。生鮮食材は村内もしくは近隣地域で購入し、地元経済に還元されます。当センターの活動を、人的にも経済的にも地域全体の活性化につなげることで、村の自立を支える仕掛けづくりを行っているのです。

## グリーンウッド自然体験教育センター

南信州泰阜村に拠点を置き、豊かな自然や文化を生かした自然体験活動によって、青少年教育や世代間交流、都市山村交流を実践するNPO。  
399-1801 長野県下伊那郡泰阜村6342-2  
TEL:0260-25-2851 FAX:0260-25-2850  
<http://www.greenwood.or.jp>

## 【卒業生の声】

矢満田祐樹さん・33歳

（だいららぼっち1期生、中学2年生時に参加）

自分にとっていだらぼっちの経験はいろいろありすぎて、なかなか言い表せない。現役のときの経験を、だいららぼっちを卒業してから消化してゆく。今でもその経験を消化しているのかな。

例えば「段取り」の大切さは、大人になっての仕事でも実感する。段取りは、たんなる見通しではなく、みんなで結果を描くこと。20人いればそのイメージはばらばらだから、話し合っ、いい意見に寄っていったりして、イメージをすり合わせてゆく。1年間かけて家を建てるからには、譲れないこともでてくる（当時、家の建設をしていた）。ケンカになったりしたけど、できあがって形になっていくから達成感はあつたし、卒業してから家も建てたことが誇りになっています。



改築された母屋の前で

## ESD 基本用語集 vol.11

ESD を読み解くためのキーワード。こんな言葉も実はESDにつながっているのです。

### ディープエコロジー

ノルウェーの哲学者アルネ・ネスが、1973年に論文で提唱した。現在の文明や社会を前提とする人間中心主義のエコロジー運動を「浅いもの（シャロウエコロジー）」として批判。地球規模の環境問題を生みだした、現在の社会システムと文明それ自体の変革を主張する「深いもの（ディープエコロジー）」の重要性を説いた。自然との一体化や生命中心平等主義を主張。人間の自然支配を批判し、人口減少の必要性を強調する。そのため人間同士の不平等な関係（暴力や貧困など）を軽視しがちな点は批判も受けたが、人と自然のつながりの回復、環境に負荷をかけない暮らし方の模索、地域主義などへの実践面で広く影響を与えている。（野田恵）

### 人間開発指数（HDI）

国民総生産（GNP）や国内総生産（GDP）は、経済開発という視点からの指標であり、人々の生活の質を問うという視点からは十分でない。より人間的な指標づくりが試みられた結果、出生時の平均余命、識字率および基礎教育の普及、一人当たりの実質的なGNPが、経済開発に代わる人間開発の指数を算出する3要素として選ばれた。1993年に国連開発計画（UNDP）が『人間開発報告書』でこの指数を発表すると、社会の関心を集め、新たな開発戦略の推進力、すなわち「人々が、長寿で、健康かつ創造的な人生を享受するための環境を創造する」力となっている。（上條直美）

# 各省庁のESD関連施策 ご紹介

ESDの関連施策について各省庁にヒアリングを実施し、地域のESD事業へ活用が可能と思われる施策をピックアップしました。予算委託、請負、助成、交付金など形式はさまざまですが、これから新しい事業に着手したい地域、現在の事業をステップアップさせたい地域のESD的な取組みにフィットしたものがあるかもしれません。なお、各事業の内容は、変更の可能性もあります。必ず当該省庁へお

## 環境省

### 地域・ESD

#### 国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業（環境政策局 環境教育推進室）

地域に根ざしたESDを普及、促進するために、全国各地でさまざまなESDに取り組むさいのアプローチ・モデルとなりうるESD事業を企画・実施する地域を公募し、支援します。

1年目は、地域においてESD推進協議会などを設置して、ESDを推進するための体制をつくり、次年度に向けたアクションプランを策定します。2年目は、多様な組織の協働により、地域に根ざした講座プログラムやプロジェクトなどの具体的なESD事業を実施することになります。また、事業の終了後も、地域が継続的にESDに取り組む仕組みを確立することが望まれます。

平成18年度は、1年目の事業費150万円で、NPO法人や大学、財団法人など全国10件の事業が採択されました（本紙9号参照）。平成19年度も4月以降に新規募集が予定されています。

●環境省の公募情報サイト：[環境省](#) → 中ほどの[お知らせ](#) → [公募](#)

## 農林水産省

### 農村の活性化

#### 景観・自然環境保全再生地域整備課 中山間整備

農村特有の良好な景観形成の保全・再生の推進を行う非営利団体に支援の場が「農業振興地域」

振興地域整備計画区域」または、田園環境整備創造区域」か「環境配慮区域」にあてはまること。H18年度は64団体へ助成。

地域再生のマスタープランづくりのワークショップ発普及活動、動植物調査、棚田管理の試行的取組・高齢化地域の古民家の雪掘り・茅刈り、竹道の保全、外来種の駆除など、多様な事業が展

●当事業の情報サイト：[農村環境整備センター](#) → 左上

●農林水産省の環境保全事業関連サイト：[農林水産省](#)  
[環境・自然再生](#)

#### 生産・流通・消費の各段安全局消費者情報官

### 食育

①「にっぽん食育推進事業体験学習や学校への出活に関する普及啓発を支

②食の安全・安心確保交付金（事業費の1/2以内）：林漁業体験活動の機会を提供する取組み）の推①②ともに「食育推進基本計画」に基づき、食事バランスガイド」の活用を通じて米を中心とし発を行うことが目的。食にまつわる地域の文化、流、都市農村交流など、ESD的な視点で食をめできると考えられます。4月下旬頃から公募予定。27団体が採択。

●農林水産省の食育関連サイト：[農林水産省](#) → 下方の

## 文部科学省

### 学校・環境教育

#### 環境教育推進グリーンプラン・新しい環境教育のあり方に関する調査研究(初等中等教育局 教育課程課)

都道府県の教育委員会と地域が一体となってESDに対応した環境教育を実施する地域を公募し、調査研究などを支援します。地域は外部人材なども活用しつつESDの実践に取り組みます。

また、文部科学省は専門家などからなる調査研究会議を設置し、事例分析や調査研究などを行います。

平成19年度は4月より公募予定で、14地域程度が予定されています。（金額などは現在調整中）

### 学校と地域を結ぶ

#### 学校支援を通じた地域の連帯感形成のための特別調査研究（新規）（生涯学習政策局 社会教育課）

教育委員会を中心に、学校、社会教育団体、NPO、PTA、学識経験者などから構成される「実行委員会」を設置し、学校を核とした学校支援のモデル的事业を実施し、その効果を調査研究します。

地域の大人が学校を支援する活動を通じて、地域が子どもを見守るという連帯感を形成するとともに、子どもたちの「知・徳・体」が向上する社会づくりをめざしています。事業実施の前と後に関係者への意識調査を行い、事業の評価を行います。

例えば「食と農」「多文化共生」「防災と環境」など地域の課題をテーマに、学校と連携した出前授業や学習補助、体験活動など、地域のNPO、公民館、博物館、農協、国際交流協会、消防署などさまざまな組織、人的資源をネットワークした「学びのしくみ」をつくることに活用できます。

2月下旬から公募、1000万円×18地域の「実行委員会」へ委託予定。3月30日（金）18時必着。

●文部科学省の公募情報サイト：[文部科学省](#) → 左上の[お知らせ](#) → [募集・公募](#)  
→ 下の[公募情報検索](#) → [企画競争を前提とする公募](#)

## 経済産業省

### コミュニティ・ビジネス

#### 環境コミュニティ・ビジネス環境配慮活動活性化モデル局 環境政策課 環境調和産

地域において企業・市民コミュニティ・ビジネス」連携体制の構築や、事

支援します。NPO、任意団体、中小企業などが活者意識を基礎として、自分の住む地域で経済し、地域の環境問題を解決しながら、コミュニティネットワークに支えられた「問題解決型・提案型」H18年度は100～400万円×14事業が採択。地域を管轄する各地方経済産業局に4月2日

●当事業の情報サイト：[経済産業省](#) → 下の[環境・リサイクル](#)

### 民間助成金

シーズのNPO Web ([www.npweb.jp](http://www.npweb.jp)) の「助成金等情報」に全国の民間の助成金情報が詳しく載っており、日々アップデートされています。ブックマークに入れて、ときどきチェックしてみましょう。

★なお、本紙の発行時にはすでに募集が過ぎてしまったものなど来年度以降の参考になるかもしれませんので、あわせてご覧ください

規模が数十万円～1千万円、地域……など、みなさんのお問い合わせください。

### パイロット事業（農村振興局事業推進室 / 各地方農政局）

成の促進、農村の豊かな自然環境について、地域密着で活動を行います。条件は、主たる活動で、景観法に基づく「景観農業マスタープランに基づく「環境5月末公募予定、上限150万円、

プ、都市と農村の協働による啓組み、都市住民の協力による過林整備による果樹園の再生、古開できる。

の **パイロット事業**

→ 上のツールバーから **農村** →

### 階における食育の推進（消費・

業）：食育実践活動の促進、農前授業などを通じた健全な食生援します。

地域における教育ファーム（農進を支援します。

の生産から消費の各段階で「食た「日本型食生活」の普及・啓地産地消、食の安全、異世代交る学びの場をもつ事業に活用H18年度は、400万円上限で

アイコン **なぜ？なに？食育！！**

### モデル事業（企業・市民等連携事業）（経済産業省 産業技術環境業推進室 / 各地方経済産業局）

などが連携して実施する「環境の立上げにかかわる関係者間の業展開に必要な準備作業などを「企業の経営感覚」をもち、生的に持続可能なビジネスを創出を活性化する事業、地域社会のの事業を対象とします。応募資料を郵送で応募者の所在地に提出（当日消印有効）。

→ **新着情報** の2月14日参照

も、ESD-JのWEBサイトには掲載しております。ください。

- 1月17日 **情報 PT ミーティング開催**  
ESD レポート 11 号の企画および編集体制について話し合いました。
- 1月20日 **石川県地域ミーティングを持続可能な社会つくりーいしかわと共催**
- 1月25日 **東京都日野市 ESD ワークショップを ESD-Hino と共催**
- 1月27日 **ESD コーディネーター養成講座（第4回）を岡山市京山地区 ESD 推進協議会と共催**
- 2月1日 **第五回シナリオづくりプロジェクト開催**  
ESD を実践する「小さなシナリオ」をつくるワークショップを開催しました。（P2-3 参照）
- 2月3-4日 **ESD フェスティバルを岡山市京山地区 ESD 推進協議会と共催**
- 2月6日 **情報 PT ミーティング開催**  
ESD-J 活動報告書の企画について話し合いました。
- 2月10日 **千葉県松戸市地域ミーティングを NPO 法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンクと共催**
- 2月14日 **ESD 関東セミナー開催**  
ESD の実践事例の紹介や地域が活用できる ESD 促進施策を調査し、その結果を紹介しました。
- 2月18日 **大阪府貝塚地域ミーティングを ESD かいづかネットワーク準備会と共催**
- 2月24日 **ESD・環境教育円卓会議 in 岡山県民局・岡山ユネスコ協会と共催**
- 2月25日 **福岡県久留米市地域ミーティングを NPO 法人久留米地球市民ボランティアの会と共催**  
**鹿児島県垂水市地域ミーティングを鹿児島 ESD 協議会準備会（仮称）と共催**
- 《その他》 江戸前 ESD ワークショップ（1月20日）、フィランソフイー協会定期セミナー（1月26日）、佐世保市 ESD セミナー（2月2日）などに講師派遣しました。

## トピックス

### 環境省 ESD 促進事業 全国 10 地域の経験交流ミーティングを開催



2月15日、環境省「ESDの10年促進事業」に採択された10地域の関係者が一堂に会し、これまでの経過報告と次年度に向けた事業計画を共有する「経験交流ミーティング」が開催されました。18年度は、各地域それぞれが、多様な主体による協議会でESD事業についてアイデアをだし、検証し、体制をつくる年です。各地の報告を聞き、ESDを地域ですすめるということは、さまざまな立場の人が集まり、地域をみつめ直し、自分たちにはなにができるのか？将来の人になにを残せばよいか？をお互いに考え合うことなのだ、改めて実感しました。地域によって状況や課題はさまざまですが、ESDをすすめていくためには、そのプロセスがとても大切であることを確認した一日でした。（事務局）

### 日本ユネスコ国内委員会オープンフォーラム開催

2月28日に、第120回日本ユネスコ国内委員会総会の特別セッションとして、オープンフォーラムが「持続可能な開発のための教育におけるユネスコの役割」をテーマに開催されました。ESD-J代表理事の阿部治もパネリストとして出席し、日本ユネスコ国内委員会会長の吉川弘之氏、ユネスコ本部 ESD アシスタントプログラムスペシャリストのカトリ氏、ドイツユネスコ国内委員会事務総長のベルネッカー氏とともに、ESDにおけるユネスコのビジョン、各国の取組み状況、ESD推進にとって必要な方策などについての議論がなされました。

ESD 推進に向けたユネスコの役割として、ESD の評価指標や、各国におけるビジョンや取組みの共有、2010年の中間年における各国の進捗と成果の確認が大切であり、なによりもESDの10年をさらに重要な位置づけとして、推進しなければならないと確認されました（事務局）

## ESDの本質

国連がなぜ ESD の 10 年をスタートしたのか。地球上で人類が持続的に存在する条件はなにか、という広い視点をもった教育が必須だからである。そのため、まずはグローバルレベルの持続可能性から考え始める必要がある。必須項目としては、(1) 気候変動 / 温暖化、(2) 食糧生産と水限界、(3) 化石燃料限界、(4) 貧困と世界人口、(5) 持続可能な生産と消費、の 5 項目ぐらいだろうか。日本という国は、食糧・エネルギー・資源を世界に依存し、製品の市場も世界である。グローバルな持続可能性が実現したとき、はじめて持続可能になる国である。これを共通認識とし、世界をまず見て、それから日本の持続可能性と未来を論じたい。ESD-J のリーダーシップに期待したい。

国際連合大学 副学長 安井至



安井 至 (やすいいたる)  
東京大学工学部卒業、工学博士。  
東京大学生産技術研究所教授、国際産学共同研究センター長、などを歴任。03 年 12 月から、国際連合大学で環境と SD 担当の副学長。専門：環境科学全般、LCA、総合環境評価。

## 私たちが ESD-J に入ったわけ

### ESDを震災復興のエンパワメントに

ESD地域ネットワークにいがた事務局 市嶋彰

思い起こせば「地域ネットワークミーティング in にいがた」からもう丸 3 年が経過した。まだ ESD ということが市民権を得ていないなか、その必要性和興味を感じながら私自身も手さぐりでの開催であったことを思い出す。

その後、「ESD 的」に組み立てなくては」とか「これってズバリ「ESD」だよな」というようなヤリトリがごく日常的にできるようになったことが大きな成果だったと思う。

新潟では、2 年半前の中越震災の復興がこれから本格化するなか、「ESD 的」な発想が求められることは間違いない。私自身も「山古志」の復興支援にかかわりながら、持続可能な中山間地のモデルづくりにおいて ESD を学んできた自分の役割は少なくないと思うし、ESD-J の活動そのものが、現地の方々へのエンパワメントにつながっていくことを期待している。

市嶋彰 (いちしま あきら)

1948 年生れ 59 才。新潟市在住。著屋のオヤジ。大人になれない大人として毎日が「センス・オブ・ワンダー」である。環境、福祉、地域づくりなど幅広い活動にかかわり、完全にボランティアホリックに陥っていて抜けだせずにいる。



### 合言葉は“ええやん、すごいやん、できるやん!(略してESD)”

ESDin三重代表 脇田 智恵

三重県内の ESD 的活動をしている人たちを一人でも多く発掘し、地域の人たちに伝え、そして互いに学び合うための小さなグループ「ESDin三重」を発足して 2 年。その輪は少しずつですが着実に広がっています。

年 4 回発行している会報「ESDたんけん隊レポート」や、子どもから大人まで気軽に楽しめる市民参加型のイベント開催をとおして、ESD の紹介と普及に努めてきました。最近、会報の読者やイベントの参加者から、「自分もできることから ESD に取り組みたい!」という声も。2007 年の「ESDin三重」の目標は、具体的に実践する仲間を増やすこと。ESD-J への参加をとおして、全国の多くの ESD に取り組むみなさんとのつながりを感じるとともに、三重県内の実践事例を全国にしっかり PR していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願ひします。



県内在住の外国人のみなさんにご協力いただき、「ワールドティパーティー」を開催。各国のお茶とお菓子を楽しみながら、世界の現状と異文化理解を深めた。

### 編集後記

「地球にやさしい製品づくり」が主流になっていますが、車両燃費 50% 改善はたいへん技術革新を要します。しかしカーシェアリングは意識改革だけでいいのです。この意識改革を促進する体系を行政・企業・市民が本気で構築・稼働させない限り、私たちの前途は暗澹たるものであり、その啓発活動も ESD の E が担う役割でしょう。(飯岡一文)

### 特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

URL <http://www.esd-j.org/> e-mail : [admin@esd-j.org](mailto:admin@esd-j.org)

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F

TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554

● 会員募集中 : 正会員 (10,000 円)、準会員 (3,000 円) 詳しくは HP をご覧ください ●



発行: NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 編集: ESD-J 情報共有プロジェクトチーム レイアウト: 河村 久美

この冊子は地球環境基金の助成により制作されています



### 団体正会員

- 財アジア女性交流・研究フォーラム
- 財アジア太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)
- 財オイスカ
- 財キープ協会
- 財京都ユースホステル協会
- 財日本環境協会
- 財日本自然保護協会
- 財日本野鳥の会
- 財日本ユニセフ協会
- 財日本 YMCA 同盟
- 財ボーイスカウト日本連盟
- 財野外教育研究財団
- 財ユネスコ・アジア文化センター
- 財ガールスカウト日本連盟
- 財日本環境教育フォーラム
- 財日本ネイチャーゲーム協会
- 財日本ユネスコ協会連盟
- 財農山漁村文化協会
- 財部落解放・人権研究所
- 財国立学校法人 岩手大学
- 財国立学校法人 筑波大学 農林技術センター
- 財国立学校法人 北海道大学
- 財学校法人 日本自然環境専門学校
- 財 NPO 法人 いきいき小豆島
- 財 NPO 法人 岩木山自然学校
- 財 NPO 法人 ADP 委員会
- 財 NPO 法人 エコ・コミュニケーションセンター (ECOM)
- 財 NPO 法人 ECOPLUS
- 財 NPO 法人 えひめグローバルネットワーク
- 財 NPO 法人 オーシャンファミリー海洋自然体験センター
- 財 NPO 法人 開発教育協会
- 財 NPO 法人 環境市民
- 財 NPO 法人 環境文化のための対話研究所
- 財 NPO 法人 キーバーソン 21
- 財 NPO 法人 くすの木自然館
- 財 NPO 法人 グリーンウッド自然体験教育センター
- 財 NPO 法人 久留米地球市民ボランティアの会
- 財 NPO 法人 国際自然大学校
- 財 NPO 法人 国頭ツーリズム協会
- 財 NPO 法人 コミネット協会
- 財 NPO 法人 サイカチネイチャークラブ
- 財 NPO 法人 しずおか環境教育研究会 (エコエデュ)
- 財 NPO 法人 自然育児友の会
- 財 NPO 法人 自然体験活動推進協議会
- 財 NPO 法人 自然体験共生センター
- 財 NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット
- 財 NPO 法人 白神自然学校一ツ森校
- 財 NPO 法人 生態教育センター
- 財 NPO 法人 ダッシュ
- 財 NPO 法人 タブラ ラサ
- 財 NPO 法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議 (CASA)
- 財 NPO 法人 地球と未来の環境基金
- 財 NPO 法人 別荘エコロジカルコミュニティー
- 財 NPO 法人 奈良県環境ネットワーク
- 財 NPO 法人 ほっとねっと
- 財 NPO 法人 ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし
- 財 NPO 法人 やまぼうし自然学校
- 財 アースビジョン組織委員会
- ESD in 三重
- ESD 未来教育研究会
- 財 エコテクノロジー研究会
- 財 エコプラットフォーム東海
- 財 OAK HILLS (オークヒルズ)
- 財 岡山市役所 (東京事務所)
- 財 岡山ユネスコ協会
- 財 環境 NGO アジア環境連帯
- 財 環境・国際研究会
- 財 くりこま高原自然学校
- 財 こくさいこどもフォーラム岡山
- 財 国際理解の風を創る会
- 財 「心のアラスカ」～星野道夫の思いを繋ぐ
- 財 サスティナブル・コミュニティ研究所
- 財 識字・日本語連絡会
- 財 自然文化国際交流協会
- 財 持続可能な開発のための教育の10年産農学園大学委員会 (ESD-R)
- 財 「持続可能な社会と教育」研究会
- 財 森林たくみ塾
- 財 スリーヒルズ・アソシエイツ
- 財 世界女性会議岡山連絡会
- 財 全国学校給食協会
- 財 仙台いくね研究会
- 財 創価学会平和委員会
- 財 ソーラーエネルギー教育協会
- 財 地球環境・女性連絡会 (GENKI)
- 財 地球環境を守る会「リーフ」
- 財 TVE ジャパン
- 財 帝塚山学院大学国際理解研究所
- 財 とやま国際理解教育研究会
- 財 日本アウトドアネットワーク
- 財 日本環境ジャーナリストの会
- 財 日本ホリスティック教育協会
- 財 ハーグ平和アピール平和教育地球キャンペーン
- 財 ホールアース自然学校
- 財 緑の環・協議会
- 財 立教大学 東アジア地域環境問題研究所
- 財 ㈩バースセンス研究所
- 財 ㈩プラス・サーキュレーションジャパン

(2007 年 3 月 15 日現在 計 97 団体)